



第141号

宇都宮市立昭和小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
浪花 寛

印刷所
(有)正栄社印刷所

ともに 学校力を高める

栃木県小学校長会長 浪花 寛



「人々が美しく心を寄せ合

う中で文化が生まれ育つ」という思いを込めて名付けられた新たな元号「令和」の時代が始まりました。

令和が、戦争や大きな災害がなく、子どもたちが自らの思うままに夢の実現に向けた歩みを進められるような時代となることを、ともに祈りたいと思います。

さて、学校教育には、予測困難と言われる未来社会

を生きるために必要となる資質・能力を、子どもたちに育むことが求められています。

こうした中、私たち校長には、確固たる経営理念を確立した上で、指導性を発揮して教職員の意欲と協働性を高めるとともに、保護者や地域住民とも目的を共有しながら、社会に開かれた教育課程を編成して創意ある教育活動を展開できる

よう、学校を経営していくことが責務として与えられていると認識しています。

一方、現在の学校現場には「主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善」「多様な教育的ニーズへの合理的配慮を明確にした特別支援教育の推進」「いじめや不登校の問題の解決」「安全・安心な学校に向けた危機管理の徹底」「若手教員やミドルリーダーの人材育成」「英語・プログラミング学習の教育計画と教育環境の整備」などの課題が山積しています。

加えて、学校の働き方改革を推進し、限られた時間の中で教職員が自らの人間性を高め、効果的な教育活動を継続的に行える状況を作り出すことも喫緊の課題となっております。

これらの課題をどのように解決していくのか、私

ち校長には、その道筋を明確にして取り組むことも求められています。

栃木県小学校長会では、このような多岐にわたる諸課題について、県内各地区の校長先生方の効果的な実践事例や、知恵、経験値などが共有化されることを通して、各校長先生方の学校経営力の向上に貢献できるように、「ともに学校力を高める」を合言葉に活動を進めていきたいと考えておりますので、会員の皆様の、本会活動へのご理解と積極的な参加をお願いいたします。

また、令和三年度には、本県で関東甲信越地区小学校長研究協議会・栃木大会が開催されることとなり、おり、本年度は準備が本格化していきます。

有意義な研究協議会となることを目指し、見通しをもつて計画的に準備を進められるよう心掛けてまいります。何かとご負担をおかけすることも多くなると思いますが、あわせて、ご協力をお願いいたします。

第七十二回 栃木県小学校長会総会

令和元年度栃木県小学校長会が、五月十六日に県教育会館で、県教育長の荒川 政利様をはじめ、多くのご来賓をお招きして開催されました。

浪花 寛会長は挨拶の中で、「新学習指導要領に書かれている『予測困難な未来』である『新しい時代を生きるために必要な資質・能力』を育むため、校長は指導性を発揮し、創意ある教育活動を展開できるように、学校を経営していくこと。また今日の課題が山積している学校現場において、解決のための道筋を明確にして取り組むこと。喫緊の課題である働き方改革の必要性は、地域・保護者の認知度の高まりや、社会全体で支援しようとする機運をチャンスとしてとらえることが重要。県校長会ではこのような諸課題について、県内各校長の実践例やアイデアなどの情報が活発に交流され、共有化し、学校経営力を向上させるよう活動を進めていく。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。最後の研修会では、作新大学特任教授の高山裕一先生から、「プログラミング教育のポイント」と題して講演があり、プログラムは思考をシンプルにするツールであり、「もしも」ならば「と判断するための条件を想像する心が必要であることや、思考力を意識して継続的に身に付けるために「構造的」「順序性」「汎用性」「最適化」の四つの要素に分類して取り組むプログラミング的思考を認識する必要があります」との示唆に富んだお話を聞くことができました。

令和元年度
活動目標

本校長会は、新たな時代の要請に応える教育の実現を目指し、次年度に完全実施となる新学習指導要領を見据えながら、知・徳・体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を一層推進する。そのため、教育創造に向けて情報を収集し、ネットワークを駆使して研修に努めていく。今年度以下九点を具体目標に定め、積極的に研究・実践を積み重ねていく。

《基本目標》

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化
- 九 関東甲信越地区小学校長研究協議会栃木大会開催準備の着実な推進

地区会長一覽

宇都宮・上三川 栗原 武夫

宇都宮市立西原小学校

校長間のネットワークを駆使し、新学習指導要領全面実施に向けた準備や学校の働き方改革の推進等、教育諸問題への対応に主体的・組織的に取り組みます。

上都賀

江連 昌宏

鹿沼市立津田小学校

校長の資質向上のために、鹿沼市と日光市校長会と連携を図りながら、研修と会員の交流を合言葉に、互いを高め合える校長会を目指します。

芳賀

高島 俊一

益子町立益子小学校

一市四町二十八校の校長が、全体研修や情報交換を通して学校経営の充実を図るとともに、校長自身の資質の向上に努められるような校長会を目指します。

下都賀

生沼 房子

野木町立南赤塚小学校

地理的には離れて位置する野木・壬生両町の十三校から成る校長会です。密に情報交換しながら小回りの

大きくよさを生かし、今日的
教育課題解決に努めます。

下野市

谷田部 二三子

下野市立祇園小学校

会員十一名。和気あいあいとした下野市校長会の良さを生かし、課題解決に向けて情報交換を密にすると共に、互いに高め合える校長会を目指します。

小山市

池澤 満

小山市立小山第一小学校

今年度は、我々校長にとつて本当に必要なことは何かを見極め、校長会の組織や取組など、今まで当たり前に続いてきたことを見直し、統合を図っていきま

栃木市

島田 隆広

栃木市立栃木第五小学校

美しく心を寄せ合う中で文化が育つという「令和」の精神を受けて、三時代を教員として生き抜いてきた三十名の英知を結集して課題の解決にあたりま

塩谷

和氣 由美子

矢板市立東小学校

二市二町二十三名の会員が、積極的な研修を通して連携を深め、会員相互の資質向上と働き方改革や学力向上などの今日的課題の解決に向け、意欲的で高め合える校長会を目指します。

那須

田崎 真

大田原市立黒羽小学校

地区内二市一町の校長会と連携を密に図りながら、会員相互の資質向上と今日的課題の解決に向けて、意欲的に取り組む校長会を目指します。

南那須

川上 ひより

那珂川町立小川小学校

一市一町八校の小学校長が連携・協力し、小規模地区のよさを生かしながら、地域の課題や今日的課題に即した研究に取り組む校長会を目指します。

佐野市

茂木 郁夫

佐野市立城北小学校

地区内二十六校が実践している改革や挑戦を共有し、地区全体の学力向上や教職



員の働き方改革等の課題解決に向けて意欲的に取り組む校長会を目指します。

足利市

村山 哲也

足利市立東山小学校

足利学校のある街足利市。その歴史と文化に支えられた足利市の教育を力強く進めていくためにも、校長自らが自学自習の精神を大切にした校長会を目指します。

令和元年度
役員一覽

会長 浪花 寛 (宇・昭利)

副会長 栗原武夫 (宇・西原)

副会長 高島俊一 (芳・益子)

副会長 小森 厚 (那・境)

副会長 池澤 満 (小・小山第二)

書記 中村ひろみ (宇・姿川第二)

書記 渡邊 功 (宇・御幸が原)

書記 和氣由美子 (矢・東)

書記 津村早苗 (宇・細谷)

書記 丸山周二 (宇・東)

書記 生沼房子 (下・南赤塚)

會計 宗方順子 (栃・吹上)

會計 黒澤 守 (上・日光)

會計 石島敦子 (足・久野)

會計監査

専門部
活動方針

総務部

部長 柿沼 隆久
宇・富士見小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

・ 本会の事業推進及び連絡調整
・ 教育懇談会等による対策活動

・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出
(小中学校長会で作成、中学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会に参加

(本県の実情等の発表)

研修部

部長 大瀧 伸一
宇・戸祭小学校

一 主題

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す 学校の経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十一回全連小秋田大会への参加

(南那須地区)
・ 第七十一回関ブロ千葉大会への参加・提案

(那須地区 塩谷地区)
・ 第六十二回中央研究大会の実施

(研究発表と講演)

(三) 研修記録「第五十九号」の編集・発行

調査部

部長 井口 桂一
宇・城東小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査、及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の内容や状況を調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 人材育成の取組状況について (一・二次)

(二) 働き方改革について (二次)

※この二点について、七月上旬に調査のためのアンケートをメールで送付いたします。期限までに各

地区調査部長へ回答くださいますようお願いいたします。

調査の結果は、報告書にまとめると共に県校長会ホームページに掲載する予定です。各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 日高 俊介
宇・石井小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づき、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和元年度は、中学校長会の慶弔会計が県小中学校長会慶弔会の会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 大塚 雅之
宇・陽光小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化にかかわる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行 (七月・二月)

・ 特色ある学校づくり

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力 (機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 「子どもたちにとって何が必要なのか」を見極める

栃木県小学校長会副会長 栗原 武夫



近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきているという現状を受け、十年後の二〇三〇年とその先を見据えながら学校教育を通じて、育てたい子どもたちの姿をもとに、新学習指導要領が改訂されました。

今年度は、移行措置期間の二年目であり、各学校では、令和二(二〇二〇)年度からの全面实施に向け、準備を進めていることとします。一時、「アクティブラーニング」という言葉がブームになりましたが、その後、「主体的・対話的で深い学び」に置き換えられ、文部科学省の改訂通知では、「小中学校においては、これまでと全く異なる指導法を導入しなければならぬなど」と浮足立つことなく、これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、子どもたちの実態や教科等の学習内容に応じた指導方法の工夫改善を図ること」と述べています。

また、「超スマート社会」とも言われぬ「Society5.0」について平成三十年に文部科学省がまとめた「Society5.0に向けた人材育成」の中で、「義務教育に求められるのは、常に流行の最先端の知識を追いかけることではなく、むしろ、学びの基礎を固めることであると考えられる。」と述べており、特に、基礎的読解力を身に付けさせることは、「公教育の義務」であると指摘しています。

今後、人工知能(AI)などの先端技術がさらに高度化し、人類がこれまで経験したことのない急激な変化が訪れようとしています。そのような中で、学校教育において、その変化に対応して変えるべきもの、「流行」と、どのような時代の変化を迎えるとしても変わらずに通して求められるもの、「不易」の両面を踏まえ、「目の前にいる子どもたちにとって何が必要なのか」を見極めることが大切になってくると思います。そして、それを地域と共有するとともに、学校と地域が連携・協働しながら、確かな教育実践を着実に進めていくことが大切であると考えています。

主張 子どもと先生の笑顔が見たくて

栃木県小学校長会副会長 高島 俊一



町教委時代、一番大変だったのは保護者からの苦情であった。電話を取ると一時間は当たり前。それらの多くは解決の糸口の見えるものであったが、中には「お前じや話が分からないから県教委につなげ。」「文科省に電話してもいいか。」などの事案もあった。実際、

文科省の担当者から電話があり、経緯を説明することもあった。学校では日々そのような保護者に対し最善を尽くしていると思われ、結果的に保護者との意思疎通が十分ではなく、町教委にもたらされる事案は、どちらかというところ泥沼状態に陥ったものであった。

多くの仕事は時間さえかければ終了するものである。しかし、前出の事案のように一度ボタンの掛け違えが起きるとどんなに時間をかけても解決できず、しかも堂々巡りとなってしまう。

現在働き方改革という名目で、いろいろな取組が行われつつあ

る。「子どものために」という思いで業務が限りなく広がっていくことに対しては、大なたを振るい整理し改善しなくてはいけないが、「早く帰ってね。」と声を掛けても、「子どもの笑顔が見たいのでもう少しやっていきます。」と言われたら「お疲れ様。頑張ってください。」としか言いようがない。教師の原点でもある、そのような情熱は大切にしなければいけないと思っている。

以前、先輩から「校長は最後の切り札だから主任や教頭に任せ、安易に関わり合わない方がよい。」と話をされたことがあった。トッポとしての心構えとしてありがたく受け入れている。しかし、保護者との関わりにおいて少しでも疑問符が付いたものに対しては、初めから教頭と一緒に事に当たるようにしている。自分の動き方ひとつで多くの人が幸せになれるのであればこんな素敵なことはない。ついにラスト一年となった。笑顔の絶えない明るい職員室として学校であり続けることを願いたい。

豊かな心をもち 輝いて生きる子どもたちの育成を目指す学校経営

子どもの輝きを引き出す教育活動の推進

上三川町立明治南小学校 荒川 幸広

本校の学校教育目標は、「豊かな心とたくましく生きる力を身に付けた児童の育成」です。そうした目標の達成のために日々教育活動に取り組んでいるわけですが、その中でも特徴的なものが、「南っ子会議」の年間を通しての実施です。

「南っ子会議」は、学校生活の充実や向上のため、学級の枠を越えた運営委員会を組織し、学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために全校児童で話し合う会議です。本校では、この会議を二年前にスタートさせ、現在は年間を通して六回、業間や学級活動の時間を利用して実施しています。当初は、低学年児童が話合に参加できるのだろうか、といった不安もありました。しかし、何回か実施するうちに、低学年児童が、分からない言葉についてきちんと主張し、高学年児童が低学年児童にも分かるように噛み砕いて説明する姿が見られるようになりました。また、小集団で話し合う場面では、高学年児童が、意見



第1回南っ子会議 テーマ「南っ子スローガンを決めよう」

が言いやすくなるよう、温かい雰囲気づくりを心がけ、低学年児童が発表するときには、一生懸命聴き、足りないところは補足してあげるといった心遣いも見られるようになりました。

こうした自発的・自治的な取組は、多様な意見を認め合い、それぞれのよさを生かし合いながら考え、伝え合うといった姿勢を育みます。そして、児童一人一人の自尊心を高め、何らかの課題に直面した際、こうすればうまくいくはずだという期待に対して、自分にはそれが実行できるという自信にもつながります。今後も、子どもたちの輝きを引き出すような教育活動を、積極的に取り入れていきたいと思います。

「かしこく・あたたかく・たくましく」の校訓の下に

足利市立山前小学校 鈴木 一弘

一 山前小学校の教育について

明治六年に開校した山下学校と大前学校を母体として、山前小は百四十六年の歴史を重ねてきました。昭和四十八年に制定された校訓は代々引き継がれ「山前小の教育」の不易な目標となっております。

◇学校経営の目指す方向◇

「子どもたちが笑顔で楽しく過ごせる学校・地域と共に歩み信頼される学校」を目指し、自己肯定感と自信をもち物事に本気で取り組める子どもを育てたいと考えました。そのためには、子どもたちのよさを認めること、学ぼうとする意欲・学ぶ力を確実に身に付けさせる教育の実践と規範意識の醸成に努めること、また、家庭・地域と連携した「共育」の推進に努めることを、学校経営の根幹としました。

二 目指す児童像・自ら学ぶ子

目指す教師像・常に子どもに寄り添い子どもの心を感じ取り支えることができる教職員

三 五月の「講話朝会」より

山前小で大切に考えている論語について紹介します。「己の欲せざる所、人に施すこと忽かれ」です。「自分がされて嫌なことは、人にしない、してはいけない」ということです。この論語を心に刻んで時々思い出して欲しいと思います。また、「子曰く、仁は遠からんや。我仁を欲すれば、ここに仁至る。」仁（思いやり・あたたかい心）は遠いところにあるものではない。自分が仁を求めさえすれば、すぐに仁はやってくるのだ、と孔子は言っています。運動会を控え、児童会のスローガン「勇気をもつて力を合わせ心をつなぐ山前小」も決まりました。みんなで力を合わせて、伸び伸び・力一杯の演技を期待しています。



山前小学校のよい子の像

特色ある学校づくり

実態を踏まえた学校教育目標達成のための取組こそが「特色」

真岡市立中村小学校 大越 武

「特色」と聞くと他校にはない取組を連想することが多いのですが、学校教育目標達成のため、児童の実態や保護者・地域の願いを踏まえた教育活動が「特色」であると考えています。いくつかを紹介いたします。

特色一 学校経営理念

生涯学習における小学校の位置付けを踏まえ、本校の役割を明確にするために、法規、学習指導要領等をもとに学校経営理念を設定しました。職員に理解させ、保護者・地域に周知しています。「私たちは子どもたちが自立し、協働して、社会に貢献できる人間になるための基盤を育成します。」というものです。

特色二 思いやりと辛抱

学校教育目標達成のため、児童の実態から目指す児童像に「思いやりと辛抱を大切にする子」を位置付けました。児童には「やりとぼう」という言葉で示し、「思いやりと辛抱」の大切さを指導してまいります。

小学生

基本的な生活習慣、規範意識などを高めるため、「当たり前のことのできる小学生」になれるよう呼

びかけています。具体的には「元気にあいさつをする」、「人のために行動する」などの言葉を随時教室に掲示し、指導を展開しています。

特色四 無言清掃

心を整えて、黙って真剣に清掃を行う取組です。学区内の中学校での同様の取組「一隅清掃」をモデルとし、小中連携のひとつとして三年前から行っているものです。

特色五 貢献

学校経営理念の「貢献」については、児童個人目標に「みんなのために」という項目を設定し意識を高めています。学級・学校・地域のために何をすべきかを各自が自己決定し、振り返るものです。

これらは他校でも実践されているものですが、本校の実態に即した教育活動であり、特色ある取組であること捉え、今後とも推進していきます。

当たり前のことができる小学生

げん き

元気にあいさつをする。

あかるく
いつでも
さきに
つづける

あいさつは中村小学校の基本。明るく笑顔で朝でも、休み時間でも自分から進んで相手の目を見て元気なあいさつを続けよう。会釈も忘れずに。

子どもたちの力を地域に

栃木市立藤岡小学校長 黒野 篤代

本校は栃木市の最南端に位置し、学校の程近くに渡良瀬遊水地があります。現在、二百四十四名の児童が元気に学校生活を送っています。そうできるのも、地域の皆様、保護者の皆様が、学校の教育活動に対して大変協力的であるからだと思っています。

さて、栃木市では、とちぎ未来アシストネットを通して地域とともにある学校を目指しています。本校でも、掛け算九九、のこぎりやミシンの使い方等に関する学習支援、学校安全ボランティアの皆様による登下校指導など、地域の方々から力をいただいています。今回は「昔遊び」と「渡良瀬遊水地の環境学習」についてご紹介いたします。

「昔遊び」は竹馬、ペーゴマ、竹とんぼ、お手玉などの遊びを異学年交流活動の「なかよし班」ごとに昼休みに使っています。毎年のことですが、上級生は上手にでき、一年生に教えるなど、授業



竹馬にチャレンジ

中とは違う楽しさがあります。来ていただいている皆様も意気揚々と活動していただいています。「渡良瀬遊水地の環境学習」は渡良瀬アクリメーション振興財団の皆様のご協力で、六月と十月に实地観察等を行い、十二月にその観察結果を発表しています。本校にとつて渡良瀬遊水地はとても身近なものです。学習を行った子どもたちは自然に対して新たな発見をし、自然の大切さを改めて感じ、後世に残していく決意を固めています。

子どもたちはまだまだ力を貸していたくばかりです。地域の皆様に元気に挨拶をし、運動会などで子どもたちの様子をみていただくことしかできません。でも、アシストネット等を通して、いつの日か地域に自分たちの力を返していつて欲しいと思っています。それが地域と共にある学校の使命であると考えています。



野鳥観察



栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

高野 恵子

栃木県女性校長教頭会は、しなやかな思考による学校経営や確かな教育の創造を目指して研鑽を積むことを目的として、公立小・中学校及び義務教育学校の女性校長百九名、教頭・副校長百八十二名で今年度の活動がスタートしました。

総会・第一回研修会では、県教育長様、県管理職員協議会長様のご臨席をいただき、活動方針を定め、研究主題を「未来を拓き心豊かにたくましく生きる日本人を育成する学校教育の推進」日本文化に誇りをもち、共に学び未来社会を切り拓く力を育む学校経営」としました。また、県教委事務局義務教育課主幹 大高栄男様に、「学校管理職に求められるもの」と題して大変分かりやすく心にしみる指針を示していただきました。第二回研修会では主題に基づく研究発表や、次世代育成のためのグローバル教育について、福原正大氏の講話を予定しています。

男女共同参画社会の真の実現に向けて女性教員の資質向上のために、会を充実させていく所存です。



「とちぎの子どもたちの学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

県教育委員会では、平成二十六年から、児童生徒一人一人の学力向上を図ることを目的とした「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を推進して参りました。

四月十八日には、本プロジェクトの要となる「とちぎっ子学習状況調査」が行われました。学力調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、課題を明確にした上で、教育指導の充実や学習状況の改善等に資するように継続的な検証改善サイクルを確立することです。

各学校においては、調査結果の分析・検証を踏まえ、指導計画等に適切に反映させるなど、カリキュラム・マネジメントを推進し、指導計画等の改善に向けて計画的に取り組んでいただきたいと思っております。

各学校が、学力調査を効果的に活用し、学校全体で組織的な取組となるよう、校長先生方のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年度

関ブ口理事会だより

栃木県小学校長会副会長

栗原 武夫

五月十日(金)東京都「ホテル東京ガーデンパレス」で、第一回理事会が以下のように開催されました。

○会長あいさつ

○協議

◆平成三十年度会務報告、決算会計監査報告

◆令和元年度役員選出

◆令和元年度事業計画案、予算案

◆第七十一回千葉大会について

※宣言文案・運営要項等

※栃木県の提案分科会及び地区教育課程・豊かな人間性(那須)

危機管理・健全育成(塩谷)

◆第七十二回茨城大会について

令和元年六月十三日・十四日

全体会・ザ・ヒロサワ・シティ会館

分科会・水戸京成ホテル他

※栃木県の提案分科会及び地区教育課程・知性・創造性(佐野)

指導・育成・人材育成(小山)

○情報交換

・教育課程実施状況調査

・自治体間格差

・校長会の組織や運用の見直し(スリム化)

・職員評価の給与への反映

・教職員希望者の減少、講師不足

・働き方改革の実施状況(スクールロイヤールの配置、時間外電話への対応等) 他

「全国連合小学校長会第七十二回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

浪花 寛

五月二十二日、東京虎ノ門ニッショーホールにて全連小理事、代議員約六百名が参加して総会が開催され、その後、文科省の行政説明を中心とした研修が実施された。

総会では、本年度より会長となつた東京都の喜名朝博校長からの挨拶、文部科学副大臣の浮島智子氏をはじめとした来賓から祝辞があり、続いて昨年度の事業・決算報告、本年度の活動方針、事業計画、予算案が審議され、全て承認された。

研修では、文部科学省初等中等教育局教育課程課長 滝波泰氏からの「当面する初等教育の諸問題」と題した講話に続き、同財務課長 合田 哲雄氏から「公教育の目標」「人材確保」「働き方改革」等について、同外国語教育推進室長 小野賢示氏から「外国語教育の指導体制」「英語を学ぶ必要性」等についての行政説明等があった。

閉会式では、秋田県会長から、秋田大会では子どもたちの教育について熱く語り合いたいとのメッセージがあり、閉会となった。

話題の広場

地域とともにある

特色ある学校づくり

～田んぼの学校～

小山市立寒川小学校 五十畑 透
本校に赴任し、最初に驚いたことは、学校敷地内に『田んぼ』と『ピオトープ』があることでした。田んぼの学校としての取組は、今年で十七年目を迎えます。

主な活動内容は、播種・育苗・田植え・収穫・脱穀体験・土器による古代米炊飯・しめ縄づくり、そして、学習発表と多岐にわたります。更に『田んぼアート』への試みも五回目となります。今年も、五種類の古代米を使い『燦然と輝く朝陽（太陽）』の中に令和の文字を表現することに挑戦しています。子どもたちの瞳は輝き生き生きと活動を楽しんでいます。

これらの活動を支えているのは、地域の皆さんで構成されている「寒川尼と古代米の里づくり実行委員会」の五十一名の方々です。

改めて寒川地区の学校に対する協力体制や地域の教育力の高さを強く感じています。今後も地域とともにある特色ある学校づくりを推進していきたいと思えます。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

伊藤 由美子

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた先生方、ご昇任誠におめでとうございます。

運営拠出金委員会は、校長会の主体的な活動の充実強化を図ることにより、校長の地位確立、職責の遂行を目的として設けられました。このような活動を支えるため、新加入の皆様より運営拠出金をいただいております。本委員会ではこれらの保管と管理を行っております。現在は、令和三年度開催の関プロ栃木大会に向けて、準備資金や開催資金を積み立てることを主な取組としております。

すでに、今年度と次年度は開催のための準備金を支出する予定となっております。また、関プロ栃木大会以降も、校長会七十五周年等の行事が予定されており、そのための資金も積み立てております。会員の皆様におかれましては、現状をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長

吉成 隆志

五月十六日の定期総会（代議員制）では、平成三十年度事業報告・決算報告、令和元年度役員報告・活動目標・事業計画・予算案審議があり、承認されました。

また、学校の統廃合（会員数の減少）による収入の減少及び十月に予定されている、消費税の値上げによる支出の増加に対応するため、二月の臨時総会で、本年度からの会費を改定しました。今後とも運営や支出の見直しを図るとともに、円滑な小学校長会活動ができるように努めて参りたいと思えます。

今年度は、関プロ大会が千葉で、全連小大会が秋田で開催されます。なお、関プロ千葉大会で、那須・塩谷地区が発表します。

栃木県小学校長会事務局は、今年度も吉成事務局長と高柳事務局員です。勤務は九時～十六時（昼休み一時間）です。

不在の場合は、留守電設定にしておきますので、用件をお話しください。

編集後記

歴史に残るゴールデンウィークの十連休も終わった。子どもたちは嬉しさいっぱいであったが、校長先生方はどうであつたらうか。

さて、元号も「平成」から「令和」と変わり、時代は大きく変わろうとしている。来年度からは小学校で、再来年度は中学校で、新しい学習指導要領が全面实施となる。義務教育学校の導入や働き方改革など、変革の波が押し寄せ待たなしの状況である。

このような変化をチャンスと捉え、新しい時代に適応した学校づくりを進めなければならない。校長の役目の重さを感じる今日この頃である。

大田原市立宇田川小学校

國安 浩

